

中国広東省深圳市における出稼ぎ青年の生活と学習

—アンケート調査を中心に—

彭 惠 敏

要旨：

今日非常に多くの労働者が中国の国中から経済特区にやってくる。彼らの多くは中学卒業生である。彼らは現在の身分や生活水準に満足していない。彼らは厳しい生活をしている。

しかし、彼らは中国の持続的な発展に重要な役割を果たしてきたし、これからも果しつづけるだろう。ある意味では、中国経済の将来は彼らの肩にかかっているといても言い過ぎではないかもしれない。にもかかわらず、彼らは先進国よりずっと悪い条件で暮らしている。

筆者は2003年12月から2004年8月までの間に、経済特区の一つ深圳の日系、中国系企業で働く16歳から26歳までの出稼ぎ青年についてアンケート調査を行い、その結果の分析をした。

この研究の目的は、彼らが仕事に対してどう考えているか、どの程度もっと学び、より高い教育を身につけたいと思っているか、彼らの生活や学習の環境がどのようなものであるかを調査し、それらについての明確なイメージを与え、今後の国の教育政策の立案に関する議論に資することである。

キーワード： 出稼ぎ青年、生活状況、学習要望

Life and Learning of Young Migrant worker in Shenzhen City, Guangdong, China

—Through a Questionnaire Survey—

Huimin PENG

Summary：

Nowadays an enormous number of workers are coming into special economic zones from all parts of China. Many of them are graduates of the middle school. They are not satisfied with their present status and level of life. They are living severe lives.

But they have been, and will be, playing important parts for lasting economic development in China. It may not be too much to say that, in a sense, the future of Chinese economy rests on their shoulders. Nevertheless, they are living in much worse conditions than in advanced countries.

The present writer conducted a questionnaire survey, between December,2003 and August,2004, on young migrant workers who are 16 to 26 years old, working for Japanese and Chinese companies in a special economic zone, Shenzhen, and analyzed the outcome.

The purpose of this study is to investigate what they think of their jobs, how eager they are to learn and to get higher education, how is their life and the environment of their learning and give a clear image of their life, working conditions, and the environment of their learning, and then contribute to discussions for making future programs of the national education policy.

Key words： Young migrant worker, life situation, learning desire

はじめに

生涯学習社会への移行を加速度させる上で発展途上国が果たす役割は大きい。とりわけ、中国の果たす役割は大きい。90年代の半ば、中国は生涯学習社会へ移行する国家プロジェクトを立ち上げた。そのプランによると、2010年までに生涯学習社会システムの基本形ができ上がることになっている。そのために、教育のすべての領域において抜本的な改革が求められているだけでなく、これまで軽視されてきた社会教育が人々の大きな注目を集めるようになってきている¹⁾。

近年の中国のめざましい経済的発展の要因は、政策面の戦略的な転換によることはいままでの間でもないが、特に人口政策、即ち、人口移動による人的資源の有効利用にある、と言ってもよいであろう。中国労働省による国勢調査の報告によると、2003年に中国における出稼ぎ労働者²⁾人口が1億人を突破した。出稼ぎ労働者の特徴は、16～26歳までの青年が約半分を占め、学歴では中卒が約半数に達していることが挙げられる³⁾。しかし、中国政府はこれまで、この膨大化する出稼ぎ青年に対し適切な教育政策を推進することはなかった。中国の経済的繁栄に大きく貢献した出稼ぎ労働者に対して、教育政策、特に社会教育面で何らかの支援、寄与をなすことは世紀的な課題であると言えるであろう。

教育と人間の発達との間に密接な関係があるのは誰もが知っていることである。学歴によって著しい社会階層間の格差が生じ、それによってその人の全人的な発達に大きな影響をもたらす。そもそも、発展途上国では教育の不平等が顕著な問題となっている⁴⁾。義務教育さえ十分に受けられない人と幼稚園からエリート教育を徹底的に受けられる人とが共存している。前者の数は後者の倍以上である。しかし、人々の目は社会のエリート階層に集中し、人口の多数を占め、社会の下層に堆積している出稼ぎ労働者にはほとんど関心を払ってこなかった。中国が生涯学習社会を目指そうとすれば、これらの出稼ぎ青年にいつでも、どこでも学習できる環境を与えることこそ喫緊の課題であろう。

中国の出稼ぎ労働者に関する研究の中で、中国青少年研究センター（以下は中青所という）の『出稼ぎ青年の状況調査』⁵⁾と東京農工大学の大島グループの中国の出稼ぎ労働者に関する一連の研究が注目に値する。それらの研究では、中国社会はかつての「盲流」論（政府や社会が出稼ぎを否定的にみる風潮）から「外来従業人口」論（政府や社会が出稼ぎを肯定的にみる風潮）に移行した点を指摘している。また出稼ぎ労働者に対する社会的な軽視が出稼ぎ労働者の挫折感、疎外感及び社会階層間の対立を生むであろうことを指摘している⁶⁾。しかしこれらの調査の対象は、いずれも「出稼ぎ労働者」であり、本研究でいうところの「出稼ぎ青年」ではない。またこれらの調査は、対象者の労働環境の厳しさを把握しているものの、再教育を受ける環境や学習欲求が一体どのようになっているのかなどについてはほとんど関心を払っていない。言い換えれば彼らにどの程度教育機会が開かれているかには関心を払っていない。したがって、中国における青年教育研究の焦点はまさにここに集約されるといっても過言ではない。

こうしたことを踏まえるとき、出稼ぎ青年の生活スタイルと学習スタイルを明らかにすることが重要である。彼らが学校を中退し、出稼ぎ人生の途上において、学習機会をどれほど享受しているか、その内実（動機、意欲など）はどのようなものか、社会はどのような態度を取っているのか。これらのことを詳細に明らかにし、中国の生涯学習政策のフォローアップの作業をめぐる議論に資するのが本研究の目的である。

本研究は、問題解明の方法として、中国珠江デルタにある深圳市の出稼ぎ青年を対象とするアンケート調査を試みた⁷⁾。対象地域に深圳を選定した理由は、同地域は中国で最も進んだ経済特区であり、最も出稼ぎ青年が集まっている地域であるからである。深圳の出稼ぎ青年の生活と学習の実態を明らかにすることを通して、生涯学習社会の到来に伴う出稼ぎ青年の学習ニーズの変容や行動パターンの変化をとらえることもできるであろう。本研究が志向するのは、伝統的なエリート青年

教育論ではなく、時代が生み出し、虐げられた出稼ぎ青年の教育論である。

1. 調査の概要

出稼ぎ青年に関する従来の研究は、主に国勢調査などのセンサスデータを用いてきた。しかしながら、そのデータの中には「出稼ぎ青年」という項目は存在しなかった。存在したのはあらゆる年齢層を含んだ「出稼ぎ労働者」という項目であった。したがって、出稼ぎ青年の学習に関する研究は、基礎的な足場をもたず、主観的な印象に頼った議論が大勢を占めていた。これに対して本研究は、出稼ぎ青年を対象にした実態調査としては初めての研究である。

このアンケート調査では⁸⁾、まず、出稼ぎ青年の生活の実態を調査するため、深圳市に進出する中資企業及び外資企業について、出稼ぎ青年にあたる生活・仕事等の実態、出稼ぎの動機、仕事の生きがいに関する事項を質問する。

次に、学習の実態に関して、現行教育制度の下での学習に期待される役割、その他具体的な学習ニーズなどについて、出稼ぎ青年における学習の実態を踏まえた要望を質問する。

本調査の母集団は、深圳市に働き、本籍をもつ16歳～26歳の出稼ぎ者である。調査は2003年12月から2004年8月にかけて、日系と中国系の企業合計11社で質問紙回答法により実施した。回収率は72.57%である。

表1 標本数・回収数

性別	標本数	回収数	回収率
男性	350	200	57.14%
女性	350	308	88.00%
日系	450	361	80.22%
中国系	250	147	58.80%

*有効回収数は508 (72.57%)

表2 回答者の属性

項目	人数	割合
性別	男性	200 39.4
	女性	308 60.6
年齢	16～20歳	201 39.96
	21～26歳	302 60.04
学歴	大学以上	34 6.69
	短大・専門	109 21.46
	高等学校	129 25.39
	中学校	229 45.08
	小学校以下	7 1.38

回答者の男女の構成は、男性200名に対して女性が308名で、女性の方が多。それは国勢調査結果と異なっている。農業省が1993年に行った国勢調査によると、35歳以下の男性出稼ぎ者が全体の72.1%を占める⁹⁾。その理由を考えてみれば、深圳に進出している企業は主に女子従業員がたくさん集まる電子、食品、服装など軽工業工場が多いからである。

また彼らの出生地を見ると、中国の全28省のうち、実に22省から来ている。そのうち、湖南省が

105名と最も多く、湖北省、四川省がそれぞれ73名、70名と続く。この結果は、深圳市の周辺地域の青年がよく流入してきていることを示している。それは中青所が全国の五都市の出稼ぎ青年を対象として行った調査結果と同一の傾向である¹⁰⁾。

回答者の学歴からみると、いずれの企業においても中学校程度が約半数を占めて最も多く、ついで高卒が多い。このような数多くの低学歴者の青年の存在は中国の教育政策の不備によるものである。高校の学費が高いため、親は子どもに進学させるのをやめさせてしまう。この点は、中青所が実施した「出稼ぎ青年の状況」という国勢調査のデータに依っても裏付けることができる。(表3参照)

表3 本調査と中青所調査の学歴比較

学 歴	本調査 (%・実数)		中青所 (%・実数)	
大学以上	6.69	34	1.1	11
短大・専門	21.46	109	3.7	37
高 校	25.39	129	37.8	378
中 学 校	45.08	229	46.1	491
小学校以下	1.38	7	7.1	71
合 計	%	508	%	988

表3に示したように、いずれの調査でもほぼ半数の出稼ぎ青年は中学校までの教育しか受けなかった。若者が憧れる経済特区の深圳市としても大学及びその以上の学歴をもつ出稼ぎ青年はわずか6.69%で、それは同市の常住人口の同学歴者の比率(10.76%)と比べられないものである¹¹⁾。それでも全国の平均率と比べると、深圳市の高学歴者の比率がまた非常に高いほうである。この理由について後述する。

2. 深圳市における出稼ぎ青年の生活実態

本論の課題は、深圳を舞台とする出稼ぎ青年の生活状況の特徴と学習の実態の反映としての学習観についてアンケート調査を行い、「出稼ぎ青年と社会教育」に関する研究の基礎的作業を行うことである。まず、アンケート調査結果に現した出稼ぎ青年の生活実態をみてみよう。

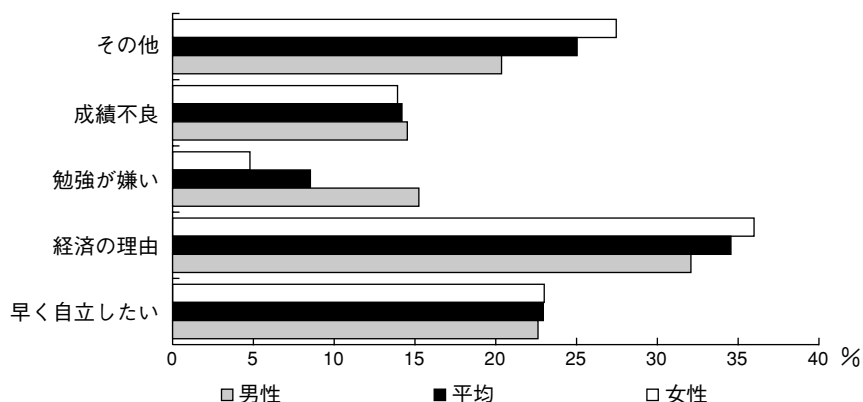
(1) 出稼ぎの理由・動機

出稼ぎ青年の学校中退の理由については、二つのことが考えられる。一つは、経済的な困難ゆえに高等教育を受けたくても受けられなかったためである。もう一つは、高等教育を受けても一般企業への就職の道が閉ざされていた親の世代が、学校に行っても無駄だという考えを持つようになり、子どもに対する教育への期待を失ってしまっていた(したがって、学歴よりも手に職をつけることを望む)という理由である。各種の調査からみても、貧困が原因で出稼ぎに出た青年が約半数を占めている。本調査では、貧困を理由に上げた者が約4割を占める。それ以外には、早く自立したいために出稼ぎに来た青年と、成績がよくないので出稼ぎに来た青年もいる。それらも間接に生活の貧困を反映したものである。

男性と女性の間で、若干の傾向の違いが読みとれる。中国は近年経済の発展によって人びとの生活が豊かになった一方で、出稼ぎ青年の女性の多くは家庭の経済的な原因で、小学校や中学校を中退して、町に出稼ぎに来たという現象が見られる。その背景には中国の伝統的な男尊女卑の考えがまだ残っていることを示している。それに比べると、男性の場合は自立願望や勉強嫌いの理由

が多い。

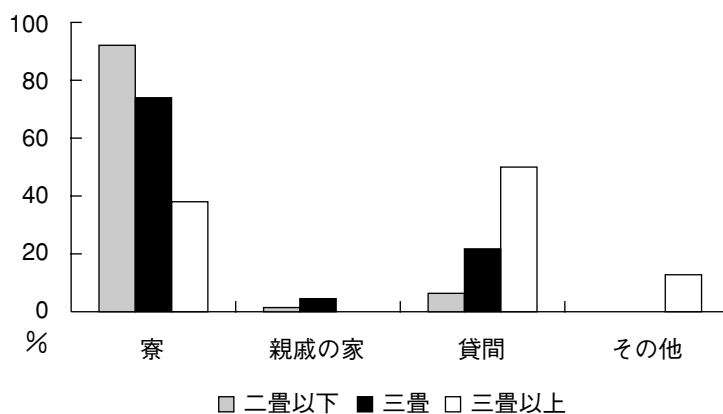
図1 出稼ぎの理由・動機



(2) 出稼ぎ青年の経済状況

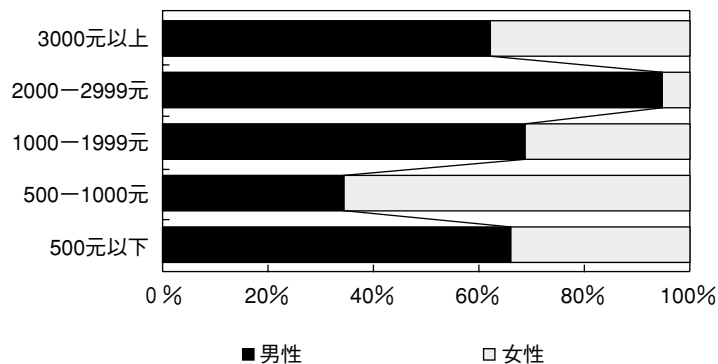
出稼ぎ青年の生活全貌をみるためには、まず、彼らの住居条件から見るのがよい。調査によれば、従業員の63%が寮に住んでいる。他方、「自宅」「親戚の家」「間借」等の通勤型はきわめて少ない。住居空間についても一人当たり二畳以下という狭い空間に住んでいる出稼ぎ青年が約60%あり、このほとんどは住込み青年が占められている。とくに製造業、建築業などで働く青年の場合にはごく普通に見られることである。このような「住込み」生活は、プライバシーや生活と仕事の未分化などの問題と結びついている。

図2 住まいと面積



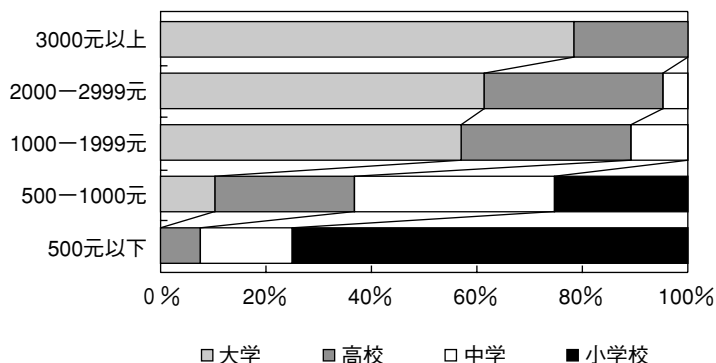
収入をみてみよう。勿論、賃金額は労働力の質、熟練度、職能によって異なる。調査によると、出稼ぎ青年の収入は500-1000元（約7000円-14000円）の間が最も多く、ついで1000-1999元（約14000円-28000円）、500元（約7000円）以下と続く。

図3-1 男女別の収入



出稼ぎ青年の賃金は主に時給制である。つまり働く時間が長ければ長いほど、給料は高くなる。月給に換算すると4500元（約60000円）台から450元（約6000円）までとかなり巾があるが、最頻値は750元（約10000円）である。これは平均就労日数24日で毎日10時間（2時間の残業）働いて得られる収入である。なお、ちなみに、中国労働省が公示した最低賃金は530元（約7000円）である¹²⁾。

図 3-2 学歴別の収入



中国労働・社会保険部は2004年1月26日に、国内主要都市における出稼ぎ労働者の就業状況を調査した。この調査は、北京、天津、深圳など、出稼ぎ労働人口が比較的多い26都市の企業2600社に対して行ったものである。調査結果によれば、新規の出稼ぎ労働者の月給は平均660元（約8,500円）であることが明らかになった。そのうち建設業界は平均729元（約9,500円）、紡績・アパレル業界は648元（約8,200円）、レストラン・サービス業界は578元（約7,500円）、貿易・観光業界は654元（約8,400円）。これと比べると、深圳市の出稼ぎ青年の賃金はやや高い。これが深圳に出稼ぎに来る人が多い原因でもあり、かつ大卒・大学院卒という高学歴者が多く集まってくる理由である。

さらに、中国農業省の調査によれば、出稼ぎ労働者の平均年収5597元、家族への平均送金額3472元である。農村での1人当たり純年収が2366元であるから倍以上の年収である。農村から都市へと殺到する理由は明白である¹³⁾。

(3) 生活・仕事への不満・悩み

深圳市の出稼ぎ青年が今の生活をどう考えているかをみてみよう。アンケート調査によると、現在の生活への満足度は極めて低い。実に75%もの青年が「不満」「やや不満」と答えている。特に女性の不満が強い。さらに分析すると、教育水準が高いほど生活の満足度も高い。高学歴者は自分の生活を掌握でき、生活条件も恵まれているからであろう。年齢別には年齢が高いほど満足とするものが多い。年齢別にみると、10代の若年層では満足と不満とがほぼ同数（約40%）であるが、20代になると満足が半数を超える。年齢が高まるほど満足の割合が高まる傾向が見られる。

図 4-1 年齢別の満足度

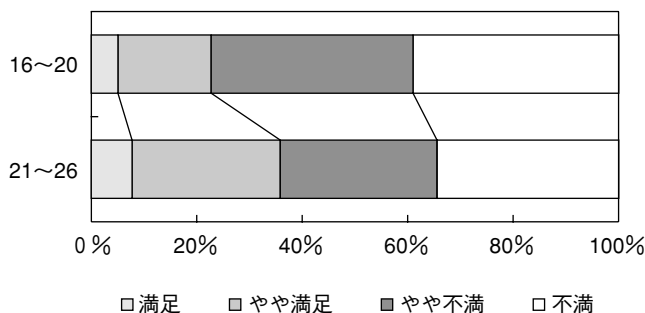
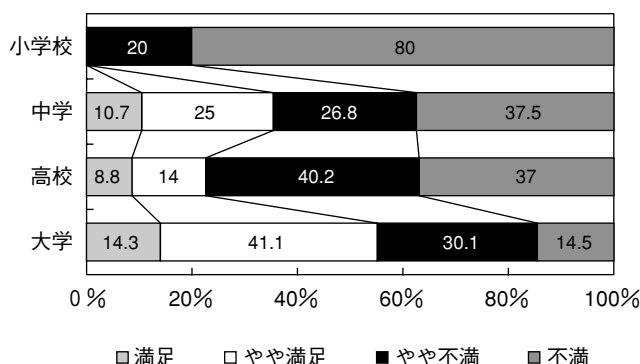


図4-2 学歴別の満足度

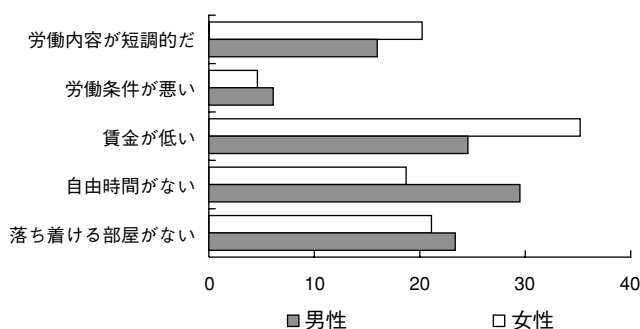


さて、不満の内容は何であろうか。複数回答による結果は〔図5〕のとおりである。第1位は「賃金が低い」(69.7%)、第2位は「自由時間がない」(21.2%)である。賃金に関する不満が一定の厚みを見せていることはすぐにわかる。技術職と違って生産現場で高い給料を得る可能性のない出稼ぎ青年にとって、低賃金に対する不満が圧倒的に高くなるのは当然のことであろう。

労働時間は、調査結果をみると、基準の8時間を超える青年が95%に達し、10時間以上に及ぶ青年も98%を数える。納期に間に合わせるために、一日、15~16時間も働かせる企業も決して珍しくはない。深圳市の出稼ぎ青年の多くにとっては、労働基準法も有名無実の存在でしかないのである。

出稼ぎ青年の生活・仕事への不満・悩みは賃金、労働時間等労働条件の問題に集中しているが、仕事の内容そのものに関する不満、悩みもまた多いことを見逃してはならないであろう。そういえば、世界中の若者が彼らの成長期に自分の仕事や生活に不満感をもつのは共通なものである。しかし、出稼ぎ青年は青年だから若者の共通の悩みをもっている以外に、また戸籍管理の厳しい中国では戸籍がないので、不公平な扱いとか、先行きがみえないとかさまざまな悩みもあることを、調査によって明らかにした。例えば、同じ働いても戸籍があるかどうかによって、仕事と収入の質、とくに社会福祉の享受は全然違う。それは一般的にいう成長期の若者の悩みと本質的に違う。

図5 不満点

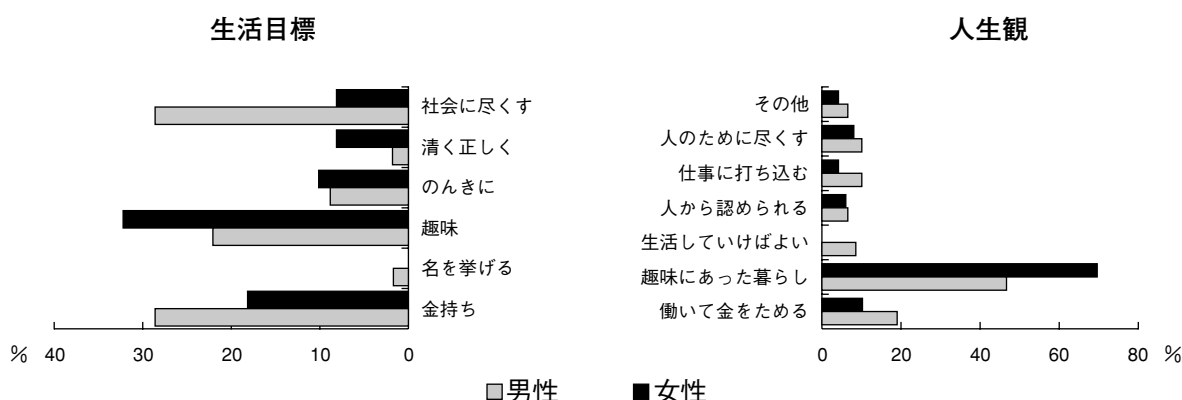


転職希望の有無については、およそ半数の出稼ぎ青年が転職したいと答える。それは、本人の無知や無自覚が原因であるとはいえ、厳しい労働条件などに幻滅を感じ、挫折し、転離職のコースを辿っていくものが多い。特に私営企業に就職した出稼ぎ青年にそのようなケースが多い。私営企業ではいまだに最低の労働条件すら守られていないところが多いのである。

(4) 生活目標と働くことの意義

そして、生活者としての出稼ぎ青年たちの生活原理または労働の意義は一体何であろうか。生活の原理としては「働いて金をためる」と「趣味に合った暮らし」がそれぞれ30%で高率であった。当然のことながら、かれらの現実の生活との間には大きな開きがあることを示している。

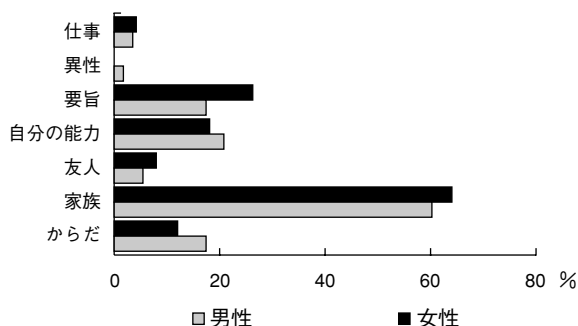
図6 生活目標・人生観



注目されるのはそんな厳しい生活、労働条件の下にありながらも、「清く正しく」、「社会に尽くす」、「人から認められる」、「人のために尽くす」等、出稼ぎ青年たちは予想以上に高い理想を持っていることである。拜金主義が流行っている今日、このような夢は貴重なものと思う。この傾向は女性より男性の方が高い。

また、今の関心事を聞いたところ、「家族」と答えた人が62%にも達している。出稼ぎ青年の多くが家族の経済の負担を解消するために学校をやめて出稼ぎに出た者達であり、稼いだ金の半分以上を仕送り、その仕送りによって家族の生活が維持されているという現実の反映であろう。

図7 関心事



もう一つ興味深いのは、「恋愛」を関心事としてあげた青年がわずかの1.7%にとどまったことである。中国では伝統的に青年期の重点は仕事とされている。実は出稼ぎ青年にとって恋愛は贅沢なことである。ましてや貧困におかれている出稼ぎ青年にとってはなおさらのことである。さらに、製造業会社の場合は従業員の90%近くが女性であり、男性と巡り合う機会も極めて限られている。これが出稼ぎ青年の恋愛に対する関心を極めて低くしている理由と考えられる。

以上にみえてきたように、出稼ぎ青年は多くの困難や幻滅や挫折などに直面しながらも、それを乗り越えて、さまざまな夢や希望、抱負に胸をふくらませている。出稼ぎという新しい人生の途上において、多くの出稼ぎ青年に青年らしい脈脈たる希望や理想が感じられる点は、重要なポイントとして指摘されるべきであろう。

次にもう1つの調査の眼目である出稼ぎ青年の学習実態をみてみよう。

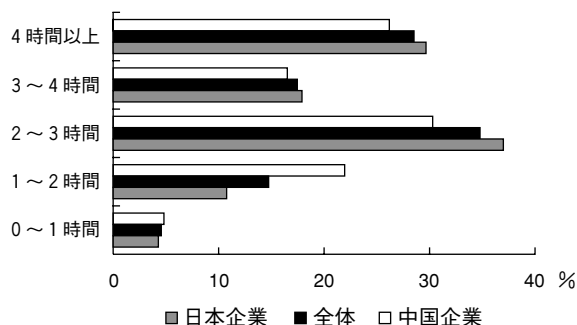
3. 深圳市における出稼ぎ青年の学習実態

(1) 余暇生活

出稼ぎ青年は生産労働者であると同時に生活者である。日々の生活を営んで肉体を再生産し、明日の労働に備えるのが彼らの生活のすべてである。現在、自由時間をどのくらい持っているかと聞

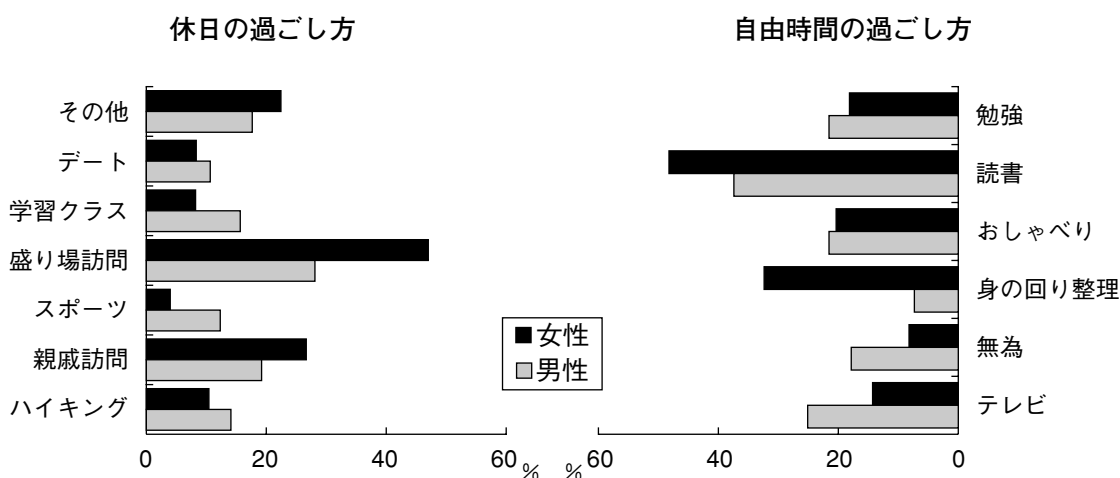
いたところ、「0-1時間」とする者の割合が5.5%、「1-2時間」とする者が18.5%、「2-3時間」とする者の割合が最も多く、34.2%、「3-4時間」と答える者の割合が17.1%、「4時間以上」と答える者の割合が24.7%となっている¹⁴⁾。

図8 日系企業と中国系企業の自由時間比



過重な労働時間とっていいであろう。それはそのまま余暇生活の貧しさに反映する。平日の自由時間は、約半数の出稼ぎ青年がわずか2~4時間しかない。食事、入浴、身辺整理などの時間を除くと、余暇生活といえる時間はほとんど消えてしまう。

図9 自由時間の利用



自由時間をどのように利用しているのだろうか。図9に表記したように、まず、平日の自由時間では、一部が「おしゃべり」と回答した他は、おおむね「読書」と答えた。青年たちは仕事の合間にすら知識を追求している。それは他に娯楽がないためでもあろう。一方で、週末などの休日については、「テレビ、新聞、雑誌などの見聞き」を挙げたものの割合が63.6%と最も高く、「おしゃべり、内務整理」(31.3%)、「盛り場訪問」(30.1%)、「スポーツ」(18.2%)、「親戚訪問」(15.8%)、「学習クラス・サークル活動」(9.4%)などの順となっている。全般的に休日で学習している出稼ぎ青年の割合が極めて少ない。男女の一部に学習クラスに通うことも見られる。さらに、性別に見ると、「学習クラス」に通う男性の割合は女性より高い。

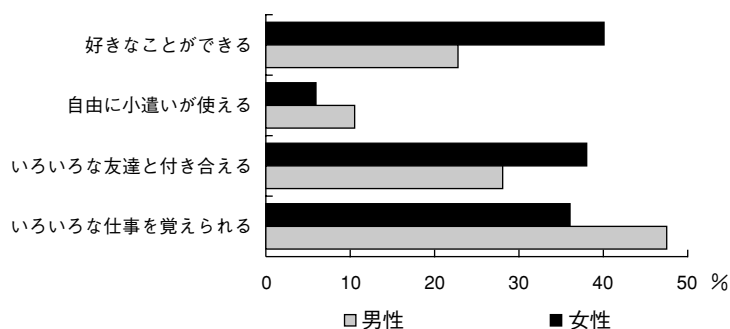
こうした出稼ぎ青年の余暇生活を同世代の他の青年と比較してみると、同世代の他の青年が1995年から週五日制を享受しているのに、出稼ぎ青年はまだ月24日以上働かなければならない。同世代の他の青年が休日に友達と郊外にドライブへいったり、映画をみたりしているとき、出稼ぎ青年は工場の近くの売店しかいくことができない。同世代の他の青年が大学院に入って、さらにと高い学歴や新しい知識を求めるとき、出稼ぎ青年の多くは高校卒業程度の学習にとどまらざるを得ない。要するに、出稼ぎ青年の生活は同世代の他の青年に比べて貧弱な余暇生活におかれている。

(2) 学習意欲

半分以上の青年は貧困が原因で学校を中退し、都市に出稼ぎにきた。しかし、出稼ぎは金のためだけではない。中青所の調査結果も本調査の結果もそれを示している。中青所の調査によると、金を稼ぎ、家計を支えるために出稼ぎに出た青年は20%に過ぎない。37%の青年は技術・技能を習うためである。本調査も同様の傾向を見出している。

まず、仕事を探すときに、どんな面を重視しているのだろうか。全体としては、「学ぶことがある」がもっとも高く、続いて「良い給料」「仕事に興味があったから」となっている。一方、「事務所の名が通っているから」や「友人、先輩、知人と一緒だから」などは低めの回答となっている。出稼ぎ青年にとって、学ぶことができるかどうかということがより重要な就職環境となっているといえよう¹⁵⁾。

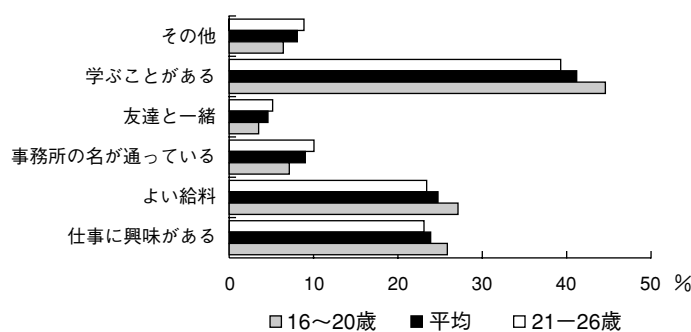
図10 仕事を探す第一の条件



これをもう少し細かく、男女ごとに見てみよう。まず目を引くのが男性での「良い給料」の高さであり、実に70%以上を占めている。これに対して女性は50%である。同様に減少傾向が著しいのが「学ぶ」「興味」が挙げられる。代わりに増大しているのが「事務所の名」「友人と一緒に勤務」などである。この二つをまとめると「安定性と友情」というキーワードであろうか。働いている自分の姿というものが見えてきている感じである。

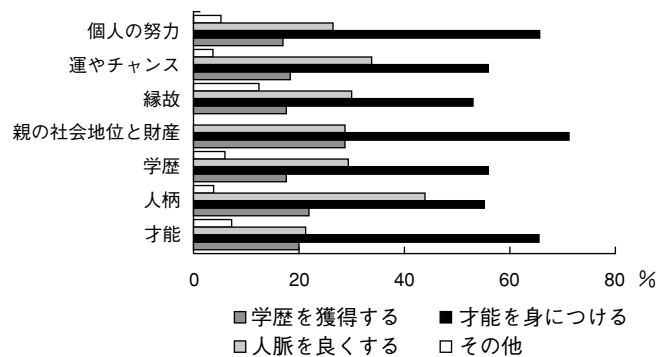
「今の従事している仕事は簡単な仕事だけど、自分が持っている知識と能力はその仕事に十分通用できるか」と尋ねた。半分以上の者は通用できないと答えた。また、ほぼ80%の出稼ぎ青年は自分の日常の仕事にある程度の学力が必要だと思っている。

図11 仕事に満足したこと



「就職できて、どういうところに満足しているか」の回答結果を見てみると、男女とも「仕事がいいろいろ覚えられた」という回答が最も多かった。特に男性の場合、技術職に就く場合はそのケースが多い。逆に技術とあまり関係ない職種に就く女性の場合は「いろいろな友達と付き合える」ことを重視している傾向が見られる。

図12 成功の要因と自分の努力点

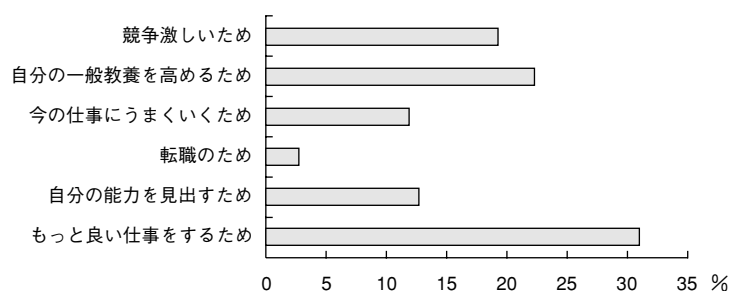


「成功した人を見て、彼らが成功した要因は何だと思うのか」と問うてみた結果は以下の通りである。「自分の努力」が26.2%、続いて「才能」20.8%、「運とチャンス」16.1%、「縁故」12.9%、「学歴」10.7%、「人柄」8.5%、「親の社会地位と財産」4.4%。それは自分自身がこれから成功するために、「才能を身につける」という考えを持っている者の割合が60.7%に達し、半数以上を占めたことを裏づけることができる。厳しい出稼ぎ生活の中に、彼らは現代社会に必要な人材はただ高学歴を持つものでなく、実力をもつ者だとしみじみ感じた。

もし機会があれば、82.7%の出稼ぎ青年はもう一度学校に行きたいという。さらに、男女別に見ると、女性66%に対して、男性では75%の高率となっている。その理由をみると、「もっと良い仕事をしたいため」が31%と最も高く、以下、「自分の一般教養を高めるため」(22.3%)、「競争が激しいから仕方がないため」(19.3%)、「自分の能力を見出したい」(12.7%)、「今の仕事にうまく行くため」(12%)などの順となっている(複数回答、前5項目)。

この調査から明らかなことは、「もう一度学校に行きたい」理由は、仕事に関連していると言うことである。優秀な従業員にあっては、責任のある仕事への希望と、未知の知識と技術への渴望がまだ熾烈であると思われる。すなわち中国の出稼ぎ青年は決して現在の能力に満足してない。その旺盛な学習欲によって、進んで企画し、進んで学び、進んで自己の独立した生活と仕事を渴望しているのである。

図13 学校へ行く理由



(3) 学習の現状

中国経済と社会が発展するにつれて、多くの出稼ぎ青年は次第に次のようなことに目覚めてくる。もっと高い文化の素養は都市で満たすことができ、労働力の市場競争の中でようやく生き残ることができ、工業化が進んでいる中でようやくますます高くなる技術の要求に適應することができる。現在の「単純な仕事」に不満をもちながらも、多くの出稼ぎ青年は中学校の教科書をひきだして復習したり夜間学校に通ったりしている。彼らの間に強い学習意欲が潜んでいることは疑いないと思われる。

そういう学習意欲の高さは、もちろん、彼らの毎日の作業内容に基づくものだが、もう一つ別の要因が加えられる。それは現代社会の科学技術の急速な変化を、彼らが身をもって味わってきてい

るからである。そして、これからもそうした変化は続くことは間違いないし、それに適応せざるをえないという痛切な気持ちが実感としてあるからである。つまり、出稼ぎ青年が求めているものは自分の運命に対する主体性なのだ。それこそは出稼ぎ青年たちがみな一度は胸に抱いた夢である。その夢をあきらめの暗所に投げ捨てたあとでも、毎日の作業のなかでおりにふれてよみがえる胸のうずきである。

自分の運命に対する主体性を獲得するという夢を実現するために、今はどのような行動をとっているかを聞いたところ、65%の出稼ぎ青年が「仕事しながら社会訓練施設とか企業内教育」によって学習していると答えている。

そのような学習を通して、ほとんどの人が「人生が前より楽しくなった」(67.2%)、「自信が持てるようになった」(26.2%)「才能をもつようになった」(18%)と思うと答えた。しかし、その学習はそれほど簡単に手に入れたものではないこともわかった。半数近い出稼ぎ青年が、「自分の学習に対して、社会や企業は積極的に支持しなかった」と思っている。出稼ぎ青年たちが学ぼうとするには、大変な努力が必要だということを意味している。

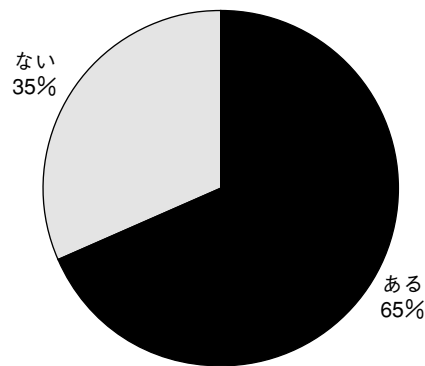
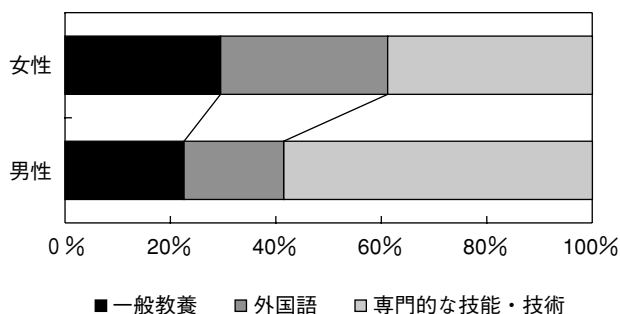


図14 学習経験

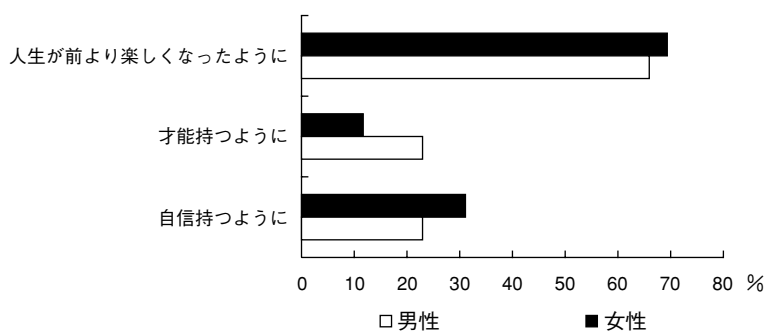
図15 学びたい内容



学びたい科目については、「専門的な技能・技術」が46.8%、「外国語」が31.5%、「一般教養」が21.7%である。「専門的な技能・技術」と「外国語」を重視する出稼ぎ青年が多いが、これは産業と人材の国際化が強調されることと関係があると思われる。また男女別にみると、男性では専門的な技能・技術を重視するひとが多く、女性では「専門能力」や「語学力」を重視する者が多い。その背景には男性は技術職に、女性は事務職にという男女差別の観念がうかがえる。

出稼ぎ青年の学習はどのような結果に終わっているのだろうか？ [図16] 男女ともにほぼ全員は思い通りの学習ができたと見ることができるであろう。しかし、むしろ強調すべきことはこの厳しい環境下にありながら66%強もの出稼ぎ青年が学習を行っているということであろう。多くの出稼ぎ青年は公的や私的な教育施設などで様々な形態の学習を行っているのである。

図16 学習の実績



4. まとめ

深圳市における今回の調査をまとめると、結論的にいえば、出稼ぎ青年は恵まれない生活環境、過重な労働条件ということにつきようである。こうした低技術含量の仕事に就く出稼ぎ青年は、長時間労働で、少ない自由時間、収入の過半の仕送りといった厳しい条件の中で出稼ぎを継続している。しかしながらそれでも彼らの多くは、高い理想と強い学習意欲とそして将来の生活に高い理想をもっている。それが今回の調査から得られた知見である。

さらに、この知見に基づくならば、中国社会をして生涯学習社会の構築という考え方に導くであろう。さまざまな青年への対策活動と並んで、社会教育のための諸活動も、出稼ぎ青年たちの潜在的な可能性の開発のための、社会的投資活動の一環としてはっきり位置づけるべきであると思われる。生涯学習社会に移行するには、出稼ぎ青年一人ひとりが、生涯にわたる学習を通して、自己の充実・啓発や生活の向上を図る総合的・体系的な生涯学習基盤を整えることがきわめて重要である。こうした見方をとるとき、中国におけるこれまでの出稼ぎ青年に関する教育論議には次のような盲点があったように思われる。

①1980年代のはじめから、改革・開放政策による出稼ぎ者の増大に伴い、中国の労働部門、人事部門および教育機構は毎年出稼ぎ者に対する社会教育や職業訓練に関する支援策を立て、その中で、出稼ぎ青年たちが社会教育機関に対するニーズが調査されている。しかしそこで調査されているのは主に大卒以上の青年たちのニーズであり、本研究に登場したような、社会低層にある出稼ぎ青年たちの学習願望にはほとんどふれられていない。この種の議論を行う際、ホワイトカラー青年のみを想定するだけでは不十分であろう。本研究が目指したいのはそれと逆で、社会的・経済的地位の不安定な肉体労働者であり、社会教育機会を持たないのは彼らでこそある。彼らを社会教育の対象としての的確に捉える努力を怠ってはならないだろう。

②社会的・経済的に弱い立場に立つ出稼ぎ青年の教育問題は、決して新しいものではない。しかしこの問題は経済的な側面での分析と同時に、社会教育体制の側面での分析も必要とする。このような視点を据えることで、出稼ぎ青年の生活環境や経済特性を反映した、固有の潜在的学習要望のプロフィールが浮かんでくる。本研究は、そうした作業を手がけた一つの試みである

③出稼ぎ青年は同世代の他の青年と比べ厳しい生活と学習環境で働いているが、学習意識は非常に高く、より高度な業務に就くことや能力向上を希望する者が少なくない。にもかかわらず、そうした希望が満たされていない点が問題である。

④中国社会の持続可能な発展を図るためには、出稼ぎ青年の教育問題、とりわけ、社会教育に関する問題はどうしても解決しなければならないことがらである。今後、出稼ぎ青年の社会教育に関する研究を一層強化しなければならない。

(注釈)

- 1) 生涯学習や社会教育と学校教育の議論は今日の生涯学習の中心課題であるが、ここに取り上げて論ずる生涯学習は学習者が自己実現のために、一生にわたって自主的に興味をもて絶えずに学ぶことを意味する。また社会教育は教育行政が社会の変動とニーズに合わせて社会人に効果的に生きる力を身につけさせる教育である一方で、学校教育は主に小、中学校及び高校や大学などの公的教育を指し、学歴教育を中心とする教育を意味する。つまり、これは一般的に限られたものではなく、ただ本文に採用しただけ論点と言えよう。
- 2) 大島一二は「中国進出日系企業の出稼ぎ労働者」に出稼ぎ労働者に関して次のように述べた。珠江デルタ地域の出稼ぎ労働者は、「大きく3つの類型に分けられる (Woon,1999)。A型は、戸籍を伴う正規の移動人口 (de jure) である。B型は、戸籍を地元に残したままの移動であり、暫住証を保持する移動人口 (de facto) である。C型は、暫住証なし、決まった住所なし、決まった職業なし流動人口 (circulatory) である」。本研究が取り上げるのは主にB型で、つまり、地元に戻ろうとする人々と地元に戻ろうとしない人々がいる。(大島一二『中国進出日系企業の出稼ぎ労働者』芦書房、2001、p.48)
- 3) 同上、P.69
- 4) 中国教育部部長の周濟氏が2005年2月にインタビューで、中国国内で高まる教育の不平等感を解消するために、

農村などの貧困地区では教科書代や諸経費を無料にする方向で調整を進めている。早ければ2005年にも実施される見込み。さらに、寄宿生学校に通っている貧困地区の学生に関しては、生活費の補助も行う。まず2005年では3000万人規模で無料の教科書配布、592の県で教育にかかる雑費や生活費の補助を行う。また、毎年大学に入学する学生のうち、20%前後は貧困で援助を必要としているため、奨学金や基金の整備を行うとしている。

- 5) 中国青少年研究センターは1999年に、北京、上海、広州、深圳、煙台という五都市で14～35歳の出稼ぎ者1000名に「出稼ぎ青年の状況」というアンケート調査を行った。調査内容は主に生活と仕事の状況に集中している。(中国青少年研究網<http://www.cycs.org>)
- 6) 農村から都市への労働力移動は改革・開放政策の初期には、「盲流」と言われ、望ましくないものとされたが、90年代に入り、沿海地域の発展が顕著になると、建設労働力として、三資系企業の安価な若年労働力として不可欠な存在と見なされるようになる。肯定的に「(農)民工」と呼ばれるようになった。(中国研究所編「中国年鑑2003版」創土社、2003年、P.69)
- 7) 広州を中心として珠江に沿って香港までの三角形の地域を指す。改革開放政策後、この地域は中国で経済の発展が最も進んでいる地域である。
- 8) 今回のアンケート調査は出稼ぎ青年の学習の問題点、改善すべき事項等について、出稼ぎ青年の意見や意識等を把握し、社会教育や生涯学習の立案に資するため、実態アンケートを実施した。回答内容は、企業の管理者の目に触れることはないし、また人間評価とは一切関係しないので、自由、率直かつ真摯に回答するように求めた。各項目は、選択式で、青年が考えやすいように、細かく問題設定を行った。調査のねらいは、①出稼ぎ青年の生活の実態の把握。②出稼ぎ青年の学習の時間の調べ。③青年の生活に対する考えや悩みなど。④青年の学習に対する気持ちなど。
- 9) 西野真由翻訳「中国農村労働力の流動現象に関する資料－中国農業発展報告1995より」中国研究、1998年、p.17-18
- 10) 中国青少年研究センターの調査結果によれば、出稼ぎ青年が最も多く流出している地域は山東省(19.9%)である。以下広東省(18.9%)、江蘇省(11.1%)と続く。(同上、p2)
- 11) 深圳市統計局編「深圳統計年鑑2003」中国統計出版社、2003年8月、p.64
- 12) 中国の最低賃金は、省、自治区、直轄市が独自に定めており、同じ省内であっても経済発展のレベルにあわせて複数の最低賃金を定めることが可能となっている。例えば、2005年の改訂を行う広東省では、最高の深圳市内から最低の陽江県まで4段階に分けられた最低賃金が設定されている。
- 13) 同上、p.163
- 14) 中国の労働法によれば、労働時間は1日8時間、週40時間以内と規定されている。残業は1日3時間まで可能で、残業の実取得賃金の時間賃金基準は150%、また、定休日出勤は実取得賃金の日賃または時間賃金の200%、法定休日出勤は実取得賃金の300%となる。
- 15) いままで収入の高低が唯一に重視された就職条件は近年大きく変わるようになった。海外から中国に進出する企業が多くなったことに伴い、人材や労働力の争いは激しくなっている。とくに新興経済特区が次々とつくり上がっていて、その競争はいつそう激しくなる。深圳は人材流失を止めるために、大幅に最低賃金を上げた一方で、さらに労働条件の改善も進んでいる。

附：アンケート調査用紙（日本語版）

1. 本人の基本情報を記入してください：

年齢：(a 16歳～20歳 b 21歳～26歳) 最終学歴：
性別： 出生地：

2. 今、どこに住んでいますか。

①寮 ②自宅 ③親戚の家 ④間借 ⑤その他

3. 一人あたりの面積は？

①3畳 ②2畳以下 ③3畳以上

4. あなたの生活の目標は何ですか。

①金持ち ②名をあげる ③趣味 ④のんきに ⑤清く正しく ⑥社会に尽くす

5. 現在、大切なのは将来に備えるのですか、今を楽しむのですか。

①将来に備える ②現在を楽しむ

6. あなたは今の生活に満足していますか。

①満足 ②やや満足 ③やや不満 ④不満

7. 生活に対する不満がある場合は何ですか。

①落ち着ける部屋がない ②自由時間がない ③賃金が低い
④労働条件が悪い ⑤労働内容が単調的だ

8. あなたは今、もっとも関心を払っているのは何ですか。

①からだ ②家族 ③友人 ④自分の能力
⑤容姿 ⑥異性 ⑦仕事 ⑧その他

9. 生活の原理としては何ですか。

①働いて金をためる ②趣味に合った暮らし ③生活していけばよい
④人から認められる ⑤仕事に打ち込む ⑥人のためにつくす ⑦その他

10. いまの社会で成功している人を見て、そのひとの成功には、次のいくつかが大きな役割をはたしていると思いますか。重要なものをいくつかも選んでください。(重要性に順番をつけ)

①才能 ②人柄 ③学歴 ④親の社会地位と財産
⑤縁故 ⑥運やチャンス ⑦個人の努力 ⑧その他

11. 今勤めている会社の規模

①99人以下 ②100～499人 ③500～999人 ④1000～1999人 ⑤2000人以上

12. あなたはここでどんな仕事をしているか

①生産現場 ②その他の現場 ③事務職 ④技術職 ⑤営業職 ⑥その他

13. なぜ進学せずに就職しましたか。

- ①早く自立したい ②経済の理由 ③勉強が嫌い ④成績不良 ⑤その他

14. どういうふうに応募しましたか。

- ①職業安定所 ②学校の紹介 ③縁故紹介 ④門前募集

15. あなたが働く先を決める第一条件は何ですか。

- ①仕事に興味があったから ②よい給料 ③事業所の名が通っているから
⑤友人、先輩、知人と一緒だから ⑥学ぶことがあるそうだ ⑦その他

16. 労働時間に関する質問ですが、一日に何時間ですか。

- ①8時間 ②9時間 ③10時間 ④10時間以上

17. そして、自由時間がどのくらいありますか。(休業～就寝)

- ①0～1時間 ②1～2時間 ③2～3時間 ④3～4時間 ⑤4時間以上

18. 自由時間に何をしますか。

- ①テレビ ②無為 ③身の回り整理 ④お喋り ⑤読書 ⑥勉強

19. 普段、休日に何をしますか。

- ①ハイキング ②親戚訪問 ③スポーツ ④盛り場訪問 ⑤学習クラス(サークル活動)
⑥デート ⑥その他

20. 就職できて、満足しているところは何ですか。

- ①仕事がいろいろ覚えられる ②いろいろな友達と付き合える
③自由に小遣いが使える ④好きなことができる

21. 現在の仕事に対する考えは何ですか。

- ①継続したい ②やめたい ③その他

22. やめたい理由は何ですか。

- ①つまらない ②難しい ③向かない ④給料安い ⑤残業が多い ⑥その他

23. あなたの働く目標は何ですか。

- ①経済的に豊かな生活を送りたい ②社会的に偉くなりたいため ③楽しい生活をしたいため
④自分の能力を試す生き方をしたいため ⑤会社の発展のために尽くしたいため
⑥社会のために役に立ちたいため ⑦自分なりの生き方でいきたいため
⑧その日その日をのんびり過ごしたいため ⑨その他

24. その目標を達成するために、あなたはどのようにするつもりですか。

- ①学歴を獲得する ②才能を身につける ③人脈をよくする ④その他

25. あなたは毎日の作業の上で実際にどのような学力（基礎学力と技術学的学力）が必要だと思いますか。

- ①一定の学力を必要とする ②ほとんど学力を必要としない ③学力を非常に必要とする

26. あなたは自分が今もっている知識と技能は今の仕事に、あるいは将来の仕事にも通用しますか？

- ①はい ②いいえ

27. もし機会があればもう一度学校に行きたいですか。

- ①はい ②いいえ

28. いいえと答える人の理由は

- ①する必要がないから ②勉強が好きでないから ③その他

29. はいと答えるひとの理由は何ですか。

- ①もっと良い仕事をしたいから ②自分の能力を見出したい ③別の仕事に転職する準備
④今の仕事にうまくいくため ⑤自分の一般教養を高めるため
⑥競争が激しいからし方がないから

30. はいと答えるひとはどんなことを勉強したいですか。

- ①一般教養（社会道徳・礼儀作法、人間関係、人生・宗教、政治、法律、経済、芸術、国語、英語、数学、理科、生活改善、保健・体育、レクリエーションなど）
②外国語（英語、日本語、フランス語など）
③専門的な技能・技術（農業関係、工業関係、商業関係など）

31. 仕事をしながら、なんらかの形で何かを勉強したことがあるか。

- ①あり ②ない

32. ありと答えた人はそのような学習を受けて、自分がどのように変わった？

- a. 自信もつように b. 才能もつように
c. 人生が前より楽しくなったように d. 何にもない

33. あなたの勉強のために、社会と企業はどんなことをしましたか。

- ①積極的に援助してくれた ②特に援助はしないが好意的だ ③無関心だ
④さまたげとなっている ⑤どんな態度でいるかわからない

34. なかった人の理由は何ですか。

- ①時間がない ②金がない ③興味がない ④必要がない ⑤その他